

事例6

青森県八戸市立東公民館・八戸市立東中学校・東地区各小学校 しめ飾り教室・子ども教室



連携の経緯

平成13年に八戸市教育委員会が「学社融合連絡協議会」を設置し、東中学校が「学社融合モデル事業」の指定を受けた。そこで、東公民館は、中学校と連携をとり、「しめ飾り教室」「郷土の歴史教室」を実施してきた。現在は、「しめ飾り教室」を継続して実施している。

また、公民館は、平成14年度から実施されている完全学校週5日制にともない、学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、子どもたちに生活体験、社会体験、自然体験など様々な活動を経験させるという目的で「子ども教室」を継続して実施してきた。

連携事業の概要

本事業は、学校教育と社会教育が相互に教育機能を高めながら、地域住民、小中学校、公民館が連携し一体となって学習や行事を行うことを目的とし、地域の教育力を高めるものとなっている。

【しめ飾り教室】

この事業は、公民館が、毎年東中学校1年生とその保護者を対象に、地元の無農薬の水田で稻刈りやしなごき（殻ばかりで中身のないもみを取ること）をして束にした稻を学校で乾燥し、しめ飾りをつくるという事業である。

【子ども教室】

この事業は、公民館が小学生を対象とした年間55回（あさひチャレンジ隊45回・子ども体験教室10回）実施している事業である。中でも、「ホールで遊ぼう」「卓上ひろば」などには、教育委員会に登録している中学生が、事前準備や当日の活動にボランティアとして参加する。

連携の形態

本事業は、公民館主催事業で、学校に事業協力を依頼するかたちで実施されている。

事業の企画は公民館が中心となり、年3回程度の「東公民館運営協力会議」（各小・中学校、PTA、自治会、老人クラブ、子ども会、福祉協議会、ジュニアリーダース等で組織）を開催し、各団体に事業の提案・説明などを行う。子ども教室は、運営協力会議では十分な連絡・調整ができないので、年5回程度の「子ども教室実行委員会」（各小・中学校、PTA、子ども会等の関係機関で構成）を開催し、事業の提案・説明などを行っている。

各小学校とは教頭と連絡をとると共に、公民館職員が直接学校を訪問し広報・PRのチラシなどの配布を依頼する。また、教育委員会をとおして、中学生ボランティアの協力も得ている。中学校とは、教頭と日程などの連絡・調整を行い、事業実施の際の事前準備や当日の活動などの詳細を、該当1学年学年主任と行う。

月	日	曜日	講 座 名	内 容
1	4	日	ホールで遊ぼう	体を動かして仲良く遊ぼう
2	6	土	卓上ひろば	卓上ゲームを通して交流を図る
3	13	土	★郷土の物をアレンジ	郷土の物をアレンジして立ち飾ろう
4	20	土	ホールで遊ぼう	体を動かして仲良く遊ぼう
5	27	土	卓上ひろば	卓上ゲームを通して交流を図る
6	3	土	ゲームにチャレンジ	いろいろなものにチャレンジしてみよう
7	10	土	料理教室	料理の基礎を覚える
8	17	土	伊東家に挑戦	いそいかとに挑戦してみよう
9	24	土	★郷土の玉が玉を作ろう	玉が玉を作って飾ろう
10	1	日	ホールで遊ぼう	体を動かして仲良く遊ぼう
11	8	水	特技大会	特技を通して文芸を演めよう
12	15	土	カルタ大戦	超カルタに勝れる
13	22	土	東ホールで遊ぼう	東ホールででかがホールに挑戦
14	29	土	ホールで遊ぼう	体を動かして仲良く遊ぼう
15	5	土	卓上ひろば	卓上ゲームを通して文芸を演む
16	12	土	ハドミントン教室①	ハドミントンのルールを覚える
17	19	土	ハドミントン教室②	ハドミントンのルールを覚える
18	26	土	料理教室	料理の基礎を覚える
19	2	日	★授了式	お菓子作りと儀式
20	9	日	卓上ひろば	卓上ゲームを通して文芸を演る

★講座…子ども体験教室

青森県八戸市立東公民館

【施設データ】

所在地	青森県八戸市大字新井田字八森平7番地67
電話	0178-25-2951
設置年	平成9年
対象地域人口	約15,260人
延床面積	820.39m ²
設置状況	単独
URL	http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/12,135,39.html

【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長（専任1） ・主事（専任3）
協議会等	東公民館運営協力会議
予算額	維持管理費： 円 事業費： 510,000円

連携の留意点

- しめ飾り教室では、事前に中学生リーダーに稻のたたき方やしめ飾りのつくり方などを指導し（土曜日等）、当日は、中学生リーダーが地域の指導者と共に参加者に指導する。
- しめ飾り教室は、校庭を会場にすることや冬季休業中に行うなど学校の教育課程に配慮する。
- 子ども教室は、小学生などの年少の子どもたちが、親近感を持ち楽しく参加してもらえるように、中学生にボランティアとして参加してもらい、日頃あまり接点がない3地区の子どもたちが一緒に楽しんで参加できるゲームなどを実施する。
- 毎年小・中学校の職業体験活動を受け入れる。これは、小中学生が公民館のクラブ活動、講座のボランティア、実習、各種団体の活動などを体験し、地域の方々と交流することが、公民館活動の理解促進につながると考えている。
- 公民館事業の広報・PRのチラシを学校に配布する時は、あらかじめ配布数をクラスごとに分け、学校に負担をかけないようにしている。



成 果

- しめ飾り教室は、普段経験することのできない伝承工芸として、保護者からとても好評を得ている。
- 地域の指導者が、しめ飾り教室をとおして事前に中学生リーダーに指導することで、「もっといろいろ教えてあげたい」といきがいを感じるようになっている。
- 子どもたちや保護者から、「公民館は、子どもが行きやすい安全な場所」として理解されるようになり、平成18年度「子ども教室」の参加者は1,381名であった。
- 公民館で住民対象に行うしめ飾り教室修了者が、学習の成果を学校の「しめ飾り教室」で生かすことができ、学習成果の活用の場となった。
- しめ飾り教室参加者から、地域の異年齢同士のコミュニケーションができると好評であり、学校との事業の連携が、公民館事業のPRにもつながっている。

課 題

- 「子どもたちが気楽に参加できる講座づくり」を目標に講座の内容を考えているが、マンネリ化しないように、指導員の専門性を生かした講座を取り入れるなどの工夫をしていきたい。
- 子どもを対象とした講座は、子どもたちの参加人数によって、講師・職員だけでは対応できない時がある。今後、自主クラブ利用者、保護者、利用団体などによるボランティア組織の確立が課題である。また、今後も学校と連携し、中学生ボランティアが活動できる機会を増やしていきたい。
- 公民館は、子どもから大人までが利用できる場所、子どもたちにとっても楽しい場所、という広報・PRを公民館便りなどをとおして今後も住民向けにしていく必要がある。

